

# 嘉手納基地に新施設

## 工事調査町に伝達

【嘉手納】米空軍が嘉手納基地内の一角を工事するため、町教育委員会に文化財調査の立ち会いを求めていることが29日、分かった。工事の目的など詳細については明らかにしていないが、米軍側が調査地点などを示した資料によると、駐機場が拡張され、格納庫など新たな施設が建設される可能性がある。本紙の取材に対し、同基地は「計画は現段階では何も承認されていない」としているが、町は「計画通りなら」大幅な機能強化につながる。断固容認できない」と反発している。

(大城大輔)

## 駐機場拡張や格納庫か

米軍側が町教育委員会に今月15日に送付した書面には「第353特殊作戦群エリア開発事業」と記され、文化財調査の協力を要請しているだけで、計画全体の内容は不明。町教委の問い

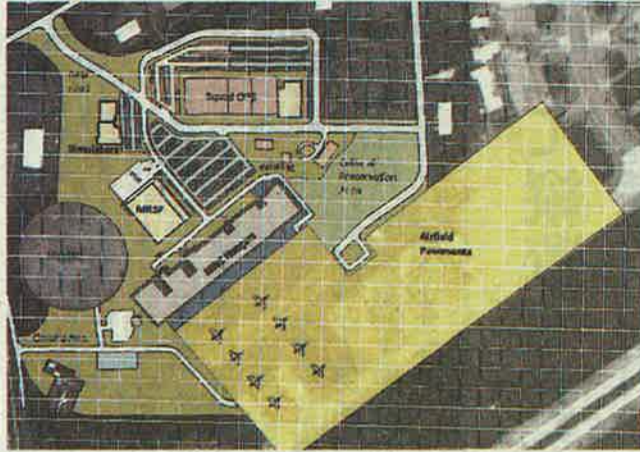
合わせて対して、調査は11月12日から3〜4カ月の予定で、3平方メートル四方246カ所の試掘調査としている。

添付された図面によると、開発事業予定地は国道58号に面し、町兼久の埋め立て地など住宅地にも近い。町によると県指定史跡の野国貝塚群と隣接しており、貴重な文化財が出土する可能性もあるという。

予定地にはMC130特



国道58号に近い開発予定エリア。国道の西側にはカデナマリーナや町兼久の埋め立て地が広がっている



添付図面では、駐機場が拡張され、緑地帯部分に格納庫など新たな施設が建設されている

殊作戦機の駐機場があり、北側は緑地帯が広がっている。添付図面によると、開発後は駐機場が拡張され、緑地部分には格納庫やシミュレーターなどの施設が、新たに記されている。

特殊作戦群には、特殊作戦用垂直離着陸輸送機CV22オスプレイが2014年から16年までに9機配備さ

れる計画が本紙報道などで明らかになっているが、日米両政府は計画の決定を否定している。

同基地第18航空団は本紙取材に、計画は現段階は何も決まっていないとした上で「特殊作戦群のインフラは老朽化し、維持管理用の格納庫も離れている。運用



を維持するため何が必要か調べている」と回答した。

富山宏町長は「秘密裏に開発計画を進めており、言語道断。オスプレイが配備される懸念もあり、計画を中止撤回すべきだ。そうでなければ部隊そのものの撤去要求も考えなければならぬ」と反発。来週にも嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会(三連協)で、沖縄防衛局や米軍側に抗議する考えを明らかにした。